

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年4月1日

【評価実施概要】

事業所番号	1270500760
法人名	有限会社錦秋会
事業所名	グループホーム木かげ
所在地	〒267-0061 千葉県千葉市緑区土気町1500-1 (電話) 043-205-7222

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成20年3月31日	評価確定日	4月28日

【情報提供票より】(20年1月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年10月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤9人, 非常勤7人, 常勤換算8人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り ストレート屋根 平屋建て		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000円	その他	食費46,200,水道光熱費20,000,理美容代,オムツ代,生活雑費など	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合	償却の有無	
食材料費	朝食	450 円	昼食	480 円
	夕食	610 円	おやつ	別途 円
	または1日当たり 1,540 円			

(4) 利用者の概要(1月20日現在)

利用者人数	15 名	男性	3 名	女性	12 名
要介護1	4 名	要介護2	6 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	75 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	武村内科医院 大網白里町立国保大網病院 都賀デンタルクリニック
---------	---------------------------------

特定非営利活動法人コミュニティケア研究所

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成17年に開設し、今年3年目を迎える同ホームは、JR土気駅から徒歩10分の便利の良い場所に位置している。ここ最近、職員の入替わりが相次いだが、新人職員もだいたい定着し、落ち着きを取り戻し始めた。経理と調理は外部委託しており、職員が入居者と少しでも長く接することができるよう配慮されている。広い庭には畑があり、よく育った作物は、食卓を賑わせ、入居者たちを喜ばせている。課題となっている地域交流も、少しずつ関わりが広がり始めているところで、これからを見守りたいホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	地域交流を第一の課題とし、少しでも関わりを増やしていこうと努めている。近くのJA土気の直売を利用したり、コンビニでも顔なじみになり始めた。また中学生の体験学習を受入れたたり、地域のボランティアにレクリエーションをしてもらったりしている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員が意見を出し合い、管理者がとりまとめた。現在、ホーム便りがないので、作成し、地域に配布しようという声が、職員から挙げられた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は過去に1回開催している。参加者は近所の方2名とホームスタッフである。第一回目はホームの紹介に終始した。次回の開催は平成20年5月中旬の予定であり、認知症高齢者グループホームを理解してもらうための説明をするとのことである。構成メンバーの検討も今後の課題である。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	ケース会議や面会等によく来られる家族からは、意見・要望等を聞く機会も多いが、ホームや入居者と関わりが少ない家族については、満足しているのか、要望があっても遠慮しているのか、つかみきれていない。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣の小・中学校の運動会やバザーに出かけている。また中学生の体験学習も受入れている。自治会に加入はしているが、会合に出席するのは、普段ホームにあまり姿を見せない法人代表であるため、十分に地域交流・連携が図れているとはいいい難い。

2. 評価結果 (詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	認知症高齢者に家庭的環境で介護をという法人理念および、生活暦・生活スタイル・個々のペースを大切にという管理者の考えたモットーを作り上げている。地域密着型サービスとしてのモットーが追加されるとさらに良いと思われる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人理念は重要事項説明書に、モットーは「木かげの特徴」としてパンフレットに掲載されている。モットーは職員の事務室にも掲示され、勉強会など、折に触れて、話し合いを行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	大木戸町の小・中学校の運動会やバザーを見に行ったり、体験学習の生徒を受入れたりしている。近くのJA土気やコンビニなどにもよく出かけ、顔なじみとなっている。地域の民生委員と情報交換している。自治会は、法人代表のみが参加する状況である。		自治会にホームスタッフも参加したり、高齢者介護に関する地域のニーズを情報収集し、より一層、地域に根ざしていくことが期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	現場職員と話し合い、管理者が作成した。自己評価・外部評価はホームのケアサービスを振り返るよい機会と捉えている。今回の自己評価では、ホーム新聞を出したらどうかという提案がでた。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は1回開催。近隣の方2名に対して、ホームの紹介を行った。次回の開催は5月中旬を予定しているが、まだ参加メンバーに声かけはしていない現状である。		運営推進会議開催の意義や参加メンバーの検討を行い、より意味のある会議の開催につなげて行くことが必要と思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	千葉市および緑区には、用事のある時に電話をかける程度である。区役所にホームのパンフレットは置かせてもらっている。		より一層地域に密着した事業所となるために、行政との関係作りも一考が促される。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、職員が入居者の様子を書いた手紙を家族に送っている。今後は入居者にも手紙に一筆添えてもらったり、ホーム新聞なども発行する計画を立てている。必要時は随時、電話等で連絡をしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケース会議に参加する家族や面会によく来る家族からは、意見・要望を汲み取っているが、それ以外の家族のニーズは、計りきれていない状況である。		運営推進会議や行事等を利用し、意見をあまり出さない家族の潜在的ニーズを探る必要があると思われる。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	このところ職員の入替わりが相次いだが、新人職員にはベテラン職員が付いて入居者に紹介し、混乱なく受け入れてもらえるよう気を配っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員に対しては、教育担当者をつけて指導している。中堅職員も、定期的に勉強会を行い、ケアに必要な知識やスキルを身につけるようにしている。		職員の入替わりがあったばかりなので、新人職員を長い目で育てていくことが期待される。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千葉市グループホーム連絡会や認知症の人を支援する専門職千葉連絡会に参加し、意見交換等を行っている。また同じ緑区のグループホームあさざりに見学に行ったり、交換でボランティアなども行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	申込者本人が納得して入居できるよう、体験入居をすることができる。入居後は、生活歴を参考に、自身の好きなことをしてもらうようにし、はやく馴染めるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	菊の花の栽培や梅干・味噌・こんにやく作り、畑仕事など、入居者は職員と共に、さまざまな活動を行い、お互いに助け合って生活している。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	昨年の外部評価でアセスメントの不十分さを指摘され、入居者の希望や意向を日常生活の中から把握する努力を行っている。家族の面会時にも生活歴や嗜好等を聞き取っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期的な会議や日々の申し送りで入居者一人ひとりの状態を把握し、介護計画に反映させている。担当制で責任を持ったケアを目指すとともに、チームケアとしての連携を怠らないよう職員同士の情報共有も大切にしている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者の状態に合わせ、定期的および随時見直しを行っている。日常生活の様子を見ながら、ケアマネジャーが入居者本人・職員・家族と相談して計画を作成する。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者一人ひとりの要望や家族の相談に応じ、ホームでできるものであればできる限り対応している。今後は地域に対しても事業所の多機能性を活かした取り組みを行って活きたいと考えている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と入居者との関係作りを大切にしている。連携病院や地域の評判の良い病院など、その入居者にあった病院、医師との関係を重視した配慮を行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期については、入居時に意向を確認し、状態変化ごとに再確認している。今までホームで、できるところまで、5人の入居者の終末期ケアを行った。今後もその方針は変わらず、職員全員で共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日常の中で、守られるべきプライバシーは、職員によって意識のバラツキが無いように努めている。具体的には、トイレ、入浴、着替えや声かけなど、問題があればその都度、管理者がアドバイスしている。個人情報の管理は厳重に行っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの希望や意向を担当職員がしっかり把握し、全職員で情報共有の上、ケアに反映している。職員の仕事の流れで決まりごとを優先させるようなことはせず、その時々気分やペースを大切にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者は個々の得意なことを、楽しく和気藹々で行っている。活気あるにぎやかな雰囲気大切にしていることが伺えた。毎月栄養管理されたバランスの良いメニューで、委託業者の調理師が食事を作っている。今日食べたい食事の希望が入居者からあればメニューを変更することもある。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	原則毎日午後2時から8時まで自由に入浴できる。入居者の希望や衛生状況によっては随時対応する。あまり入浴を好まない入居者については、職員が何日入っていないかを把握し、楽しく入れるような工夫を凝らしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	担当職員が入居者個々にあった役割や楽しみごとを把握し、それを日常生活の中で行えるようにチームで支援している。また、生活の中での様々な動作が、自然なりハピリに繋がるよう配慮している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩や買い物に出かけるようにしている。入居者の一人が外出を希望すれば、皆に声をかけ、行きたい方が出かけられるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者一人ひとりの所在および行動の特徴を把握することで、鍵をかけないケアを実践している。施錠しないことで職員の気配りや入居者の感情の変化に気づくなどケアの質向上にも繋がっている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は年1回行なわれていたが、さまざまな状況を想定した訓練が行われていない。		火災、地震、夜間想定、怪我の緊急処置など、様々な状況に対応できるような訓練が重要と思われる。さらに職員、入居者はもとより、地域住民とも連携しての訓練が期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの栄養摂取や水分摂取は日々チェックされ、不足している場合は不足分を確保できるよう支援している。食材は専門業者に外部委託し、バランスの良いメニューで、調理師が食事を作り栄養管理されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	開放的なオープンキッチンと大きなリビングダイニング、窓の向こうには、木かげを生み出す大きな木と、芝生や畑があり、入居者と職員が白菜と大根を取りに出かけていた。職員は、入居者皆が居心地よく過ごせるように努めている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者本人が使い慣れたものを居室に置いて生活感のある居室で生活している。入居者によって殺風景になる居室が無いようにご家族にも連絡して家具などを持ってきたいようにご連絡している。調査当日もご家族がタンスを搬入されていた。		